

マーケット・レポート
日銀金融政策決定会合(7月30日・7月31日)の注目点

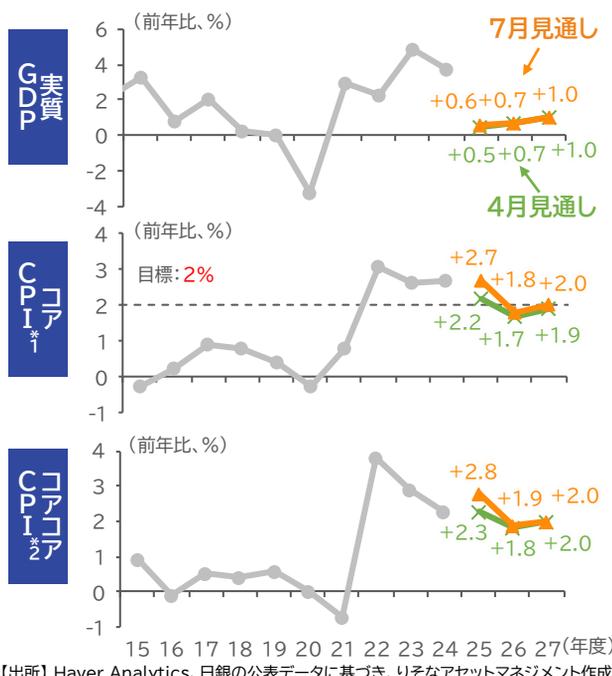
日米関税合意は前進と評価も利上げ再開の明確な示唆なし

- 金融政策:政策金利据え置き。経済・物価情勢が見通し通り推移すれば利上げ継続の方針維持
- 経済・物価見通し:米国通商政策を巡る不確実性は後退、25年度以降の物価見通しを上方修正
- 市場の反応:植田総裁会見終了後、ドル円は150円台まで円安が進行

1. 物価見通しを上方修正。2%の物価安定目標は、見通しの後半(26年度後半~27年度)達成見込む

- ・金融政策:事前の予想通り、政策金利を据え置き
現在の0.50%で据え置くことを全員一致で決定しました。
- ・日米関税合意について、前向きな動きと評価
展望レポート内で、通商政策等に関して、“日米間で関税合意に至るなど前向きな動きがみられる”と評価しました。海外の経済・物価動向を巡る不確実性については、“きわめて高く”から“高い状況”へ微修正されました。
- ・経済・物価見通し:27年度物価見通しを政策目標2%に設定
実質GDP成長率の見通しは概ね据え置かれた一方、コアCPI(物価)を25年度+2.7%(4月見通し:+2.2%)、26年度+1.8%(同+1.7%)、27年度+2.0%(同+1.9%)とし、27年度の物価見通しは物価安定の目標である2%へ上方修正されました。25・26年度の経済見通しについては前回評価“下振れリスクの方が大きい”が維持された一方で、物価見通しは“概ね上下にバランスしている”と前回の“下振れリスクの方が大きい”から上方修正されました。
- ・今後の金融政策運営について
現在の実質金利が低い水準にあることを踏まえ、経済・物価情勢の改善に応じて、引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していくとの見方は維持されました。

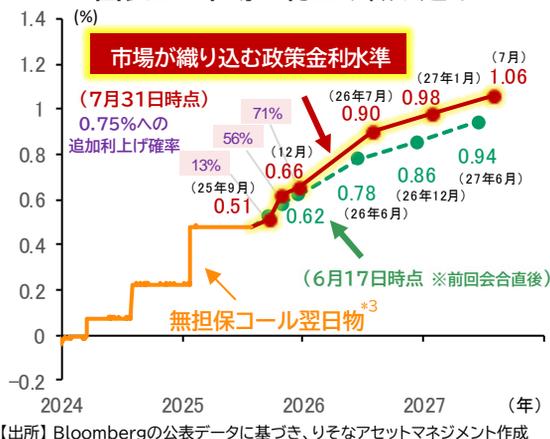
図表1. 政策委員の景気・物価見通し(中央値)



2. 植田総裁は見通し実現の確度は少し高まったとしつつも、関税の影響を見極めたい意向示す

植田総裁による記者会見では、「関税合意は大きな前進ではあるが、一気に霧は晴れない」など慎重な発言が目立ちました。関税交渉については、「関税率を巡る不確実性は低下した一方、高い関税率をかけられることは確定的なことから、影響の不確実性は依然高い」と言及しました。ただ、「不確実性が低下したことで見通しの実現の確度は少し高まった」としました。記者からはビハインド・ザ・カーブに陥る(≒政策が後手に回る)リスクが繰り返して指摘されました。これに対し植田総裁は、「現状はそのような状態に陥っておらず、今後もそうなる可能性は高いと思っていない」と否定しました。記者会見を受け、ドル円相場は148円台後半から150円台に円安が進みました。短期金融市場は年内利上げの確率を7割程度(右図)と見ていますが、円安が一段と進んだ場合、追加利上げ時期が前倒しとなる可能性に留意が必要と考えます。

図表2. 市場の利上げ織り込み



※本文、図中の*については、最終ページの<補足>をご覧ください。
※当資料の使用に際し、最終ページの<当資料に関するご留意事項>を必ずご覧ください。
作成:運用戦略部 投資戦略グループ 矢野大輝

〈補足〉

*1 コアCPI:消費者物価指数(除く生鮮食品)を示す。

*2 コアコアCPI:消費者物価指数(除く生鮮食品・エネルギー)を示す。

*3 無担保コール翌日物:金融機関がコール市場にて、無担保で翌日に返済する取引における金利を示す。無担保コールレート(オーバーナイト物)とも表記される。日本の政策金利の操作目標。

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡す「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。